

## 編集後記

「月信をより多くの人に読んでもらいたい」という石丸ガバナーの強いご指導のもと、月信委員会では様々な新しいことに挑戦しました。レイアウトやデザインを少し変更する、音声データを掲載して聞けるようにするなど試行錯誤を繰り返しながら取り組んでまいりました。

取り組みの甲斐あってか、様々な方から「内容が充実していて読みごたえがある」「音声で聴けるので助かっている」など嬉しいお声を頂きました。

また、月信は委員会メンバーだけで作るものではなく、毎月原稿を提供して下さる皆様の協力あってのものです。例会やガバナー公式訪問の際には原稿とあわせてたくさんの写真もご提供いただき、各クラブの様子がわかる月信となりました。この場を借りて御礼申し上げます。

最後になりますが、石丸ガバナー年度の月信委員長として活動ができたことをとても嬉しく思っております。毎月の会議や原稿依頼など多大なる尽力を頂きありがとうございました。

札幌西ロータリークラブの高橋会員をはじめ、月信作成に尽力していただいた皆様に御礼申し上げます、編集後記といたします。

中村 真規

ガバナー月信Final号が無事発刊されたことを大変うれしく思います。これも地区の委員会の皆さまを初め、各クラブのロータリアン皆さまのご協力の賜物と感じております。

今年度は、紙媒体からWEB配信への移行ということで、年度当初は、多くの方々にご不便をおかけしたこともあったかと思えます。ただ、紙面の制約を受けず、多くの情報を発信できたことは、大きなメリットだったと思えます。

今後も情報技術の発展に伴い、情報発信の方法も変わっていくこともあるかと思えます。環境変化に柔軟に対応できるロータリークラブとして、今後も進化していくことを祈念しております。

1年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

川村 忠

地区副代表幹事という立場で、ガバナー月信にも携わりました。

石丸ガバナー月信Final号を発行する事が出来たのも、月信委員会をはじめ、各地区のロータリアンの皆様、関係各位のご協力の下、原稿の依頼等を快く承諾頂き、写真などの情報提供を頂きました事、心より感謝申し上げます。

今後もロータリークラブ、そして第2510地区、皆様の各クラブの益々のご発展をご祈念申し上げます。

下村 卓也

## 編集後記

すでに任期を終えて1ヶ月が過ぎようとしているが、ガバナー月信委員会の活動も振り返ればあっという間であった。石丸ガバナーのご指名を受け、委員会はかなり早い段階から準備に入り、ガバナー年度には、月一ペースでオンラインによる定例委員会を重ねた。

私の担当は、特に国際的な青少年交流事業である米山奨学生、青少年交換派遣留学生（ROTEX X含む）、地区補助金奨学生の声を紹介することであったが、最終的に米山奨学生17名、青少年交換派遣留学生3名、ROTEX 5名、地区補助金奨学生2名、合計27名の青年たちを紹介することができた。彼らの日本や海外との交流のきっかけは様々であるが、いずれの青年たちも未来への希望と行動力にあふれている。ガバナー月信委員会の活動を通じて、ロータリーのこのような活動を知ることができたことは誠に幸いであった。ユースを育むことは未来に宝を積むロータリーの貴い働きである。

原稿締切に毎月ハラハラし、特に海外からのユースのこなれていない日本語を平易な言葉に校正することに頭を悩ませたが、その中で日本語の「てにをは」の難しさを改めて感じさせられ、自らの文書作成の際の研修ともなった。また、様々なお国事情を知ることができ、ちょっとした紙上ツアーを楽しませてもらうことができ感謝であった。

秋葉 聡志

「月信をより多くの人に読んでもらいたい」という石丸ガバナーのご意向のもと、第2510地区で開催されました行事をはじめ、出来るだけタイムリーな記事を掲載できるよう心掛けてまいりました。タイムリーな記事を掲載するためには原稿締め切りが短くなってしまう場合も多く、皆様にはご多忙の中ご協力をいただき感謝しかございません。

また、事務局の寺島さんには、原稿依頼、督促、校正で大変お世話になりました。ご尽力に感謝申し上げます。

今回の月信は手作りで作成しておりました。中村委員長のもと月信を作成いただいた駒崎さん、月信委員の皆様、多くの関係者のご尽力のおかげで月信Final号まで発刊できました。

ガバナー月信の発行に際しまして、多くの皆様よりご寄稿を賜り、ありがとうございました。お陰様で内容が充実したガバナー月信を発行することができました。心より感謝申し上げます。

高橋 都